

# 全県1学区制をめざす県、県教委の方針をどう思うか

佐藤 愿

〔質疑〕『国立大学合格者数を伸ばしている県内拠点校の取り組みを水泡に帰さないため、対策が必要』（河北新報 解説）

『全県1学区制となった場合、仙台一極集中が起きる。地方では、優秀な生徒が流出し、高校の定員割れ、淘汰もありうる』（石巻市教育長）

など見解が表明されている。市長、教育長に公立高校（普通課）全県1学区制が子どもたちに与える影響、地域社会に与える影響等について、その見解を伺いたい。

その他の質問  
安全、安心の学校給食と地産・地消型食材・食品の提供について

# 地域力を向上するために、行政はどう係わるべきか

保科 惣一郎

〔質疑〕地方分権が進み、行政に対する住民ニーズが多様化し、さらに福祉の受け皿づくりが必要なることを考えると、ますます地域力が求められてくる。

①介護保険法が改正され、サービス費用の負担が出来ず、施設に行けなくなった高齢者や障害者に対して、受け皿づ

くりとして地域の福祉を一本化した施設が必要ではないか  
②高齢者の地域参加を進めるためにも、学校の空き教室を高齢者の趣味、運動、ものづくりの勉強の場としての活用は出来ないか。

〔答弁〕公立高校の学区制の問題については、県教委では現在、学区制のあり方をどのようにすべきか高等学校入学者選抜審議会に諮問しており、現時点では、学区を撤廃するつもりはないとも何ら方針を決定していない段階であると聞いている。

公立高校の通学区域の問題については、まだ同審議会です案という形で出ている段階であり、教育委員会としても、そのことについてはまだ深く分析していない。

考えられるマイナス面としては、受験競争が激化する可能性はあると思う。また、遠距離通学が強いられるということがある。プラス面としては、魅力ある学校を自由に選択でき、あるいは学力向上につながるのではないかと分析をしている。

〔答弁〕本年4月に設置した地域包括支援センターを中心に、地域の皆さんと保健・医療・福祉の担当部署との連携体制を強化して、専門的な相談、社会福祉協議会等の関係機関や事業者との連携強化を通じて、地域福祉の増進に向けた総合的支援を強化していきたいと考えている。また、防災面についても、各自自治会における自主防災組織づくりの中で、高齢者や障害者に対する支援を強化しているところである。

各地域でスポーツ、あるいは音楽もいろいろ行われているが、教育の場に高齢者の方々が戻ってもう一度学び直すという、その姿は尊いと思う。カラオケやゲートボールなどは、健康維持、体力の増進になるが、もう一度学び直したいという形で図書館、地区にある学校の図書館を利用する、あるいはパソコン教室を開いている学校もあり、学び直す場所としては最適であると考えているが、少子化が進んでも学級は減っていかない。



大幅に減れば複式学級になり、教室が空くが、1学級の人数だけが減るので、空き教室そのものは増えない現実がある。また、少人数指導という形で1学級を二つに分けて指導する場面が多くなり、特別教室も足りなくて利用している状況である。

質問の趣旨には賛同できるので、放課後、図書室やパソコン教室・体育館などを利用しながら、検討したいと考えている。